

1 歳時記

快挙!! 「準優勝」おめでとう!
千春会自衛消防隊
第5回 乙訓消火技術競技会

…地元のみなさんとともに



毎年、参加している乙訓消火技術競技会で、千春会自衛消防団は見事「準優勝」に輝きました。
今年も村田製作所、パナソニック、日立マクセルなど、名だたる強豪が参加した消火器の部、男子26チーム出場で競い、昨年の「入賞」を超える快挙となりました。



気合いにあふれるメンバー

開催にあたっては、「選手宣誓」も務めた千春会。各チームが見守る中、一番初めのチームとして競技に臨みました。土砂降りの雨の中をものともせず、きびきびした気合溢れる動きで消火活動を行い、高い評価となりました。また、女子部門も昨年以上の奮闘ぶりで、一生懸命さが伝わった競技でした。
忙しい仕事の合間をぬって、真剣な消火活動に励むのも、いざという時に病院や施設の方々を守りたい一心です。
来年は「優勝」を目指し、さらに技術を磨いていきます。



千春会による堂々の選手宣誓

2 歳時記

祝! 優勝!! 全日本医師テニス千葉大会
ハイパーサーミアクリニック 近藤元治院長が
驚愕の2クラス制覇!
(男子シングルス 優勝)
(男子ダブルス 優勝)

ガンの温熱療法「ハイパーサーミアクリニック」で、日々、ガン患者さまの治療にあたる近藤元治院長は、スポーツマンとしても有名です。
なんと、今年は「全日本医師テニス千葉大会」で、シングルス・ダブルス共に優勝という驚異的な記録を達成。
毎年、全国からテニスを愛するドクター達が集まり、しのぎを削る大会です。参加者の腕前は相当ですが、テニス、ゴルフ、乗馬などスポーツで鍛えた近藤院長のパワフルテニスの勝利となりました。



優勝の盾を手に互いの健闘を讃え
(右より)優勝:近藤院長 準優勝:福士先生(青森)

3 歳時記

おめでとう!
「京都府看護功労者」として
中川美代子看護師が
表彰されました

京都府保健医療功労者等知事表彰
11月25日
京都府の医療・看護に貢献されてきた方々に京都府から贈られる功労者表彰式が行われました。
中川看護師は、千春会に勤務されてまだ1ヶ月ですが、前職の西京都病院での功績が評価されての表彰となり、長年、看護教育の場の拡大に取り組んだ看護管理者として、山田啓二京都府知事より表彰状が授与されました。



山田知事から表彰される中川看護師

編集後記

明けましておめでとうございます。
本年は「辰年」。昇り龍の如く、全てが勢いよく上昇し、天空より皆さまに「幸」が降り注ぎます事をお祈り申し上げます。
さて、皆様はご存じでしょうか?
千春会ロゴマークの色は、ブルーが「医療」を、グリーンは「介護」を表しています。

そこで新年号表紙は「千春会病院」と「春風」をつなぎ、「連携」をイメージしてみました。
今後「医療と介護」は、さらに結びつきを深めます。
千春会はこれまで同様、「医療と介護」を大きな柱として、堅実な歩みでさらに新たなステージへと進んでまいります。
本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。(弘)

患者さまの権利と義務

- 当院では、次に掲げる患者さまの権利を尊重します。
- 1 患者さまは誰でも、良質な医療と良質な看護を公平に受ける権利があります。
 - 2 患者さまは、医療の内容について納得できるまで十分な説明を受ける権利があります(インフォームドコンセント)。
 - 3 患者さまは、他の医療機関の医療者に意見を求める権利があります(セカンドオピニオン)。
 - 4 患者さまは、医師から説明を受けた治療方法など自らの意思で自由に選択し決定する権利があります。
 - 5 患者さまは、ご自分の診療録など診療情報の開示を求める権利があります。
 - 6 患者さまは、個人の情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

また良質な医療と看護を公平に受けていただくために、患者さまに次の義務をお願いしております。

- 1 患者さまご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にご提供ください。
- 2 十分理解できるまで質問していただき、納得した上で治療をお受けください。
- 3 患者さまおよびご家族の方々は、他の患者さまの治療や職員による医療提供の支障にならないように協力する義務があります。

日本医療機能評価機構認定病院
千春会病院
〒617-0826 京都府長岡京市開田2丁目14-26
TEL. (075)954-2175 FAX. (075)955-4615

せんしゅん



ISO9001:2008認証取得
日本医療機能評価(Ver.5)認定病院

<http://www.senshukai.or.jp/>

千春会 検索

発行責任者：菊地 孝三



理念 (3つの使命)

1. 患者・利用者の自立を支援し、良質な医療・看護・介護を提供する。
2. 仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。
3. 事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。

基本方針 (5つの志)

1. 優しい心を基本とする。
2. 医療と介護の相互充実を基本とする。
3. 疾病・障害を一体的に把握し、総合的な医療・介護サービスの提供を基本とする。
4. 良好な療養環境の維持並びに向上を目指す看護・介護を基本とする。
5. 互いの立場を理解し、尊重しあう職場づくりを基本とする。

医療法人社団 千春会



新年のご挨拶

千春会病院 院長 藤原 仁史

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年の3月に発生した東日本大震災にて被災された方々におかれましても、新しい年が良いものとなりますよう、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

本年も千春会病院はこれまでの方針を貫いて、「良質な医療・看護・介護」を地域に提供し続けていくことを職員一同、心に誓っております。

さて、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、高齢者人口が3500万人に達することが予想される2025年に向けて、厚生労働省は医療・介護サービスのあるべき姿とその実現に向けたスケジュールについて明確に提示しております。その中で、今後の7回にわたる診療報酬改定により、その体系的見直しと医療介護の機能分化・地域連携の重要性が強調されています。

その第一歩としての診療報酬・介護報酬の同時改訂を迎えます本年は、医療・介護の両輪が協力して前進するために、これまで以上に一体として機能することを求められる元年と言えます。

当法人も、千春会病院の目指す「地域のかかりつけ病院」としての機能を十二分に発揮し、介護系施設・事業所も合わせた千春会法人全体として、総合的な医療・介護サービスを提案していく所存です。

菊地孝三理事長の指揮の下で千春会は少しずつ、しかし着実に15年間変化し続けております。特に近年、地域医療に貢献すべくハード・ソフト両面で大きく進化いたしました。

まず2005年に病院建て替えと「千春会病院」への病院名称変更を行い、同時に乙訓地域で充足が必要とされた透析センターを開設し、翌年には病院をはじめとする全施設でISO認証を取得いたしました。2007年には「医療機能評価 (Ver. 5)」、さらに2008年には「看護基準7:1」を取得、平均在院日数も14日台 (2010年の年間平均) と短縮いたしました。2009年には「疾患別リハビリ」での基準「I」を取得し、ADLの維持・改善と在宅復帰への支援に注力して参りました。また病院以外の介護施設におきましても第三者評価において高い評価を得る事ができました。

2010年には「在宅療養支援病院」として、これまで以上に訪問診療に力を入れる体制を整え、訪問看護ステーションとともに在宅療養を支える機能を拡充しました。

そして、昨年末の12月には「医療機能評価 (Ver. 6)」への更新審査を終了、常に医療の質の改善に取り組んでおります。

また、2010年1月にJR長岡京駅前にオープンした『千春会ハイパーサーミアクリニック』も、ガンの温熱療法の治療機器「サーモトロン」を2台稼働させ、ガンの治療の選択肢の幅を千

春会病院と協力して広げております。

さらに、2011年5月にオープンした介護老人保健施設『春風』につきましては、特にリハビリテーションを充実させるために療法士を多数配置し、在宅復帰機能を強化した施設として、関西でも最大級の100名の入所者とショートステイ20名の受け入れと、200名の通所サービスを提供できる体制を整える努力をしております。この『春風』の開設により、在宅療養をされている方々と在宅復帰を目指す方々への一助となればと考えております。

今後は地域の中で、各々の病院はその機能を明確にし、行政と協力しつつ、近隣医療機関や介護系施設・事業所と連携しながら機能分化していくことが求められる時代となります。

その中で、千春会病院は「地域のかかりつけ病院」として、一般外来診療及び1次から軽度の2次救急の対応とその入院医療を担うことを基本と考えております。加えて60床の限られた病床の中、亜急性期病床を8床届け出ております。今後も近隣の高度急性期・一般急性期の病院からの退院後に、地域連携パスの運用等にて継続したリハビリを必要とする方々の入院を受け入れ、これまでの方針通り「亜急性期病院」としての役割を果たしていく所存です。

また、介護施設・通所施設等を利用されている方々と在宅医療・訪問看護・訪問リハビリ・訪問介護等を受けられている方々の日常診療の

担当と、病状変化時に迅速・適切に対応する機能を果たすべく、さらに質の高い医療の提供を目指してまいります。

さて、今年の当法人の新しい事業展開ですが、昨年より時間をかけて検討し、現在進行中である「介護複合施設 東向日 (仮称)」の開設に加え、様々な疾患を抱える高齢者の方々のための「サービス付き高齢者住宅」の建設準備などがあげられます。

特にこの居住施設につきましては、当法人の新規事業といたしまして、今後の高齢者増加による需要の爆発的な増大に対応すべく、乙訓地域のみならず、京都市内から近隣府県での広範囲な展開を視野に、菊地理事長をはじめとする法人理事を中心に、慎重かつ積極的に進めております。

このように千春会は、「医療・介護の連携」をキーワードにコンプライアンス遵守はもとより、地域の模範となるべく、本年も着実に大きく進化してまいります。

そして、法人の医療の要である「千春会病院」も近隣医療機関との連携を大切に「医療と介護」の中核として、今年もその役割をしっかりと果たすために職員一丸となって日々努力を重ねてまいります。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

平成24年 元旦

「病院機能評価 Ver.6」更新審査を受審しました

「病院機能評価」は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。（公益財団法人 日本医療機能評価機構ホームページより）

千春会病院は「病院機能評価 Ver.5 認定病院」ですが、5年目の更新時期を迎え、昨年12月に「医療機能評価 Ver.6」の更新審査を受審しました。



全体講評での理事長・院長・各部署長

平成23年12月14日、15日の2日間にわたり、公益財団法人日本医療機能評価機構より4名の評価調査者（サーベイヤ）が当院に来られ、6つの領域に対し、マニュアル、手順書、規定、実績などあらゆる角度から審査。千春会病院が地域に根ざし、安心・安全かつ、信頼と納得の得られるサービスを提供すべく、日々、努力している病院であるか否かの審査が慎重かつ公正になされました。審査終了後、サーベイヤからは「千春会グループとして、医療、介護の連携が機能しており、チーム医療が確立されています。またISO、第三者評価機関等を活用し、医療・看護の向上にむけた努力を強く感じます。今後もさらに継続的な改善活動を期待します。」との総評をいただきました。



病棟審査中の(左)サーベイヤ

NEWS ニュース

安全祈願祭 平成23年11月25日 大安

平成24年夏、向日市に開設予定の「介護複合施設 東向日（仮称）」の安全祈願祭が滞りなく執り行われました事をご報告させていただきます。

当日は、すがすがしい秋晴れに恵まれ、向日神社（向日市）にて、ご来賓、工事関係者各位、当法人役員が今後の施設開設にあたっての安全を祈願いたしました。今後の工事にあたりましては、万全の配慮にて安全確実に進めてまいります。



ご列席の関係各位



安全祈願の玉串を奉納する菊地理事長

「介護複合施設 東向日（仮称）」は、向日市では初めてとなる「認知症」に特化したデイサービスなどを併せ持つ複合施設となり、1階はデイサービス、2階ショートステイ、3階には認知症対応型デイサービスを予定しています。

この施設を通じ、「良質な介護」の提供にて、地域の方々により充実した生活を継続していただけるよう、力を尽くしてまいります。

☆ 平成24年 夏
向日市にて新規施設オープン予定 「介護複合施設 東向日（仮称）」

栄養サポートチーム臨床研修受け入れ 平成23年10月6日（木）、7日（金）

藤井政雄記念病院より、看護師の岩佐康博さん、薬剤師の西嶋和美さんのお二人が「栄養サポートチーム臨床研修」に来院されました。

指導には糸井副院長、臨床栄養師の谷中主任があたり、栄養アセスメントや栄養管理方法、在宅栄養ケア、NSTカンファレンス、回診などの研修を実施しました。

岩佐さん、西嶋さんからは「病室も広く看護基準も7:1と、たいへん充実した病院だと思いました。栄養サポートチームがしっかりしておられ、先生方も協力的です。積極的に前向きな取り組みが本当に参考になりました。」

栄養科で、入院患者さま全員の栄養状態を把握して、カンファレンスや回診に臨んでおられるせい、経管栄養の患者様の皮膚の状態が良いのにも驚きました。藤原院長はじめ関わった職員全員の方が本当に優しい方ばかりで、方針として患者さまを第一に考えておられる事がしっかりと伝わってきました。」との感想をいただきました。



NSTメンバーと(左から)岩佐さん、西嶋さん

ワクワク ドキドキの職場体験

長岡第三中学校

例年通り、かわいらしい中学生が12名、病院と介護施設へ職場体験にやってきました。仕事の大変さや楽しさ。多くの人に関わって病院が動いている事なども、知ってもらう事ができたようです。これからも出来る限りのご協力をさせていただきます。

デイケアセンターそよ風 「介護老人保健施設 春風」内

川上さん

もっと暗いイメージだと思ったけど、みなさん明るくてお元気。役に立てる仕事をしたいと思っているので貴重な体験をしました。

伊東さん

昔の話や知らない事を教えてもらいました。施設もきれいでカレンダー作りも楽しく、体験して良かったです。お年寄りの支えになりたい。



デイサービス友岡

中山さん

人生経験が豊富で、長岡の歴史など、学校では聞けない話が聞けました。寝たきりの人ははかりかと思っただけ、みんなおしゃべりでお元気。

大草さん

緊張したがお話をしていると慣れました。スタッフの人もやさしくて、この仕事もすくいいなと思いました。



デイサービス滝ノ町

三浦さん

関われない世代の方々から、学んだことも多く充実していた。学校にいる時間より短いのに仕事は本当に大変だと思いました。

岡本さん

最初は、何もわからず不安でしたが、利用者さんは明るく楽しい方ばかりで不安がなくなりました。



デイサービス上植野

大橋さん

想像していたよりも大変そうな仕事ですが、スタッフさんがみんな楽しそうでした。私も大変でしたがとても楽しかったです。

老船さん

スタッフの方が細かいところまで気遣っている事に驚きました。将来は、不自由のないように心地よくできるような看護師になりたいです。



千春会病院 看護部

磯中さん

思っていたより大変そうでした。患者さんに笑顔で話しかけたり、大丈夫と声かけされているのがスゴイと思いました。

米田さん

病院にはレントゲンの先生やリハビリをする人など多くの人が患者さんのために働いていることがわかりました。

室さん

自分から話かけるのが難しく、緊張しました。看護師さんは、注射だけというイメージがありましたが、多くの仕事をしておられました。

小泉さん

患者さんの気持ちを一番に考えておられ、すべてが患者さんのためにされているのだという事に気づきました。



お姉さんナース(左2人)と一緒に

新春座談会

これからの「春風」を熱く語る 若きリーダー達

平成23年5月の「介護老人保健施設 春風」開設から、あっという間に半年以上が経ちました。今年は、認知症対応型のデイケア「せせらぎ」も本格的に稼働し、さらなる充実を目指す「春風」です。新春にふさわしい「想い」をスタッフに語ってもらいました。

それぞれが関わり合う「多職種連携」が在宅復帰の鍵

入谷 マネージャー



「春風」は入所後の一定期間(3か月程度)での「在宅復帰」と「在宅支援」を目指す施設です。介護度の高い方も多く、在宅復帰は容易ではありませんが、半年、懸命にやってきた今、「連携」というものが本当に重要だと感じています。在宅復帰を目指すためには、単体で各部門が支援しているだけではいけません。ご自宅での受け入れ体制を整えるには、相談員がご家族さまの気持ちを汲んで、繋がりを大切にしていかなければなりませんし、介護スタッフは、ケアを通じて日常生活の訓練を行います。管理栄養士が関わることで、食事がきちんと摂れ、栄養状態が改善すればリハビリ効果にもつながります。リハビリスタッフはリハビリを通じて身体機能を向上させ、医師や看護師は健康管理を行うなど、そのような関わりが相互にあるからこそ、本当の意味での「在宅復帰」が可能となる訳です。

「春風」という施設の中では、その方を取り巻く「多職種間の連携」が大きな力になることを実感しています。

三輪 介護士



開設後、しばらくは規模の大きさとまどう事もありましたが、常に「このケアは在宅へつながっているのか」といった目線を持ち、さらに在宅復帰のためのケアとなるよう、今後は他部署との連携を活かしたいと思っています。ケアマネさんからは、様々な情報をもらい、ADL(生活の質)向上ならリハビリ、栄養は栄養科、医療・看護の知識もどんどん取り込み、3か月間の生活の場に介護スタッフに関わる事により、トータルな介護を提供し、在宅復帰につながるよう強化していきます。

川淵 相談員



入所後、ご自宅に復帰された方もありますが、特別養護老人ホームへ入られた方もおられます。常に「在宅復帰支援施設」という観点に立ち返って、お一人でも多くご自宅に帰っていただく事を念頭に「介護が辛いので「老健」へ」といった入所ではなく、あくまでも「春風」が始まりであり、ご自宅に帰るための出発点になるような位置づけにしたい。相談員は施設への入口と出口に関わる大切な役割なので、しっかりと「在宅に対する提案」を行い、サポートしていきたいと思っています。

桑原 作業療法士



あっという間の半年でした。短くて長い、長くて短い3か月の入所期間では、一日中リハビリをする訳ではなく時間も限られていますが、機能訓練室でリハビリをして元気にご自宅へ帰ってもらいたいと毎日頑張っています。リハビリを敬遠される方もおられ苦労しますが、一日に何回も声かけしたり、やる気を持ってもらえるようアプローチをしています。予想以上に回復された利用者さまがおられるので、自信と励みになりますね。「立つ」「歩く」等の動きだけでなく、衣服の着脱など生活の場を想定した実用性の高いリハビリを進めたい。機能訓練時間だけでなく、介護スタッフはじめ、多くの職種が密に情報共有し、関わることで入所者さまのモチベーションを高め、在宅につなげたいと思います。

山本 作業療法士



そうですね。1日利用のデイケア「そよ風」には、介護度が高い重度の方や高齢者の方ばかりではなく、40歳~50歳代といった若い方もおられるので、それぞれに合わせた個別訓練を行い、回復を目指してもらっています。車イスだった方が歩けたり、階段の昇降ができるようになったり成果が出るのはうれしいです。筋力をつけることで歩行が楽になったと実感してもらえた方などは、リハビリそのものを楽しみに来てもらっています。

佐藤 作業療法士



「春風」のデイケアは、広さ大きさといった点で立ち上げが大変でしたが、デイケア「あお空」では午前・午後に分かれて短時間でリハビリを行う事ができますので「一日中拘束されるデイケアには行きたくない」という方でも「ここなら」と通っておられます。3時間の運動を飽きることなく続けられるだけのリハビリ機器もあり、男性の方には時間を有効に使えると好評です。今後は、短時間でも少しは他の方々と交流できるような「憩いのデイ」へも取り組みたいと思っています。また、リハビリのセラピストが介護スタッフにその知識を伝えることで、全体のスキルアップができればと考えています。

新春より、一層の「連携」を目指す春風スタッフ。「スタッフとのコミュニケーションを細やかに、デイケアあお空、そよ風、ショートステイ、老健、ご自宅といったサイクルがスムーズに連携できるよう、さらに全体を統一していきたい」と入谷マネージャー。「良質な介護の提供」を目指す、スタッフの心は一つ。地域の方々の在宅生活をしっかり支えてまいります。

機能訓練・リハビリのさらなる充実を